

# 放置竹林増殖困った

## 九州・山口伐採急ぐ

全国の竹林面積の半分以上を占める九州・山口で、放置された竹林が農山村部で急速に広がっている。20年足らずの間に面積が倍増した自治体もある。都会人には癒やしのイメージがある竹林だが、意外に難物。繁殖力が旺盛なモウソウチクなどの竹は人が手を入れないとすぐに密生、外に勢力を広げ始める。果ては農地に広がったり、森を覆って杉やヒノキを枯らしたりしてしまう。危機的な状況に、各地の自治体や住民が荒れた竹林対策に本腰を入れ始めた。

(渡辺翔太郎)

# 樹木枯らし農地侵食

福岡県篠栗町の山中に1月中旬、チェーンソーの音が響きわたった。町が1年ほど前からボランティアとともに始めた竹林の伐採。この日は町民ら約40人が参加し、10年以上放置されたと思われる竹林で、密生したモウソウチクを切り、チップ状に砕いた。

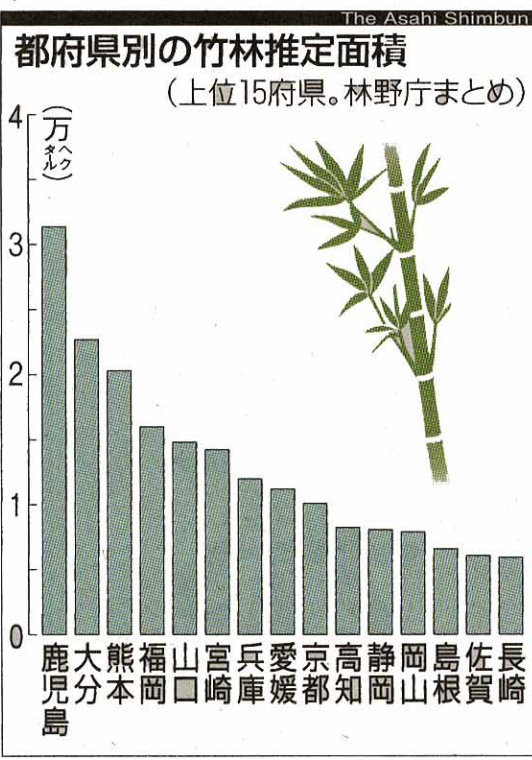
水を枯渇させる恐れもある。ほったらかし状態を何とかしないと」と話した。

町はかつてタケノコ生産が盛んだったが、安い中国産に押され、缶詰工場が90年代半ばに操業停止。以来、荒れた竹林が目立つようになったという。

参加した同県森林林業技術センターOBの野中重之さん(66)は「竹は日光を遮りほかの植物が育たなくなる。地下

輸入タケノコの影響だけでなく、プラスチック製品の普及でザルやカゴ、竹ざおなどの日用品や建築資材に竹が使われ

モウソウチク 国内に分布する約100種のタケ・ササ類のなかで最も大型の竹。1年で地下茎を1~5m伸ばし、タケノコは地下茎から養分を取りながら2カ月ほどで20cm前後の高さに成長する。密生すると林内が薄暗くなり、生息する動植物の種類が減少するほか、荒れた竹林では地下茎が枯死し、土砂崩れを招く危険性も指摘されている。



る機会が減ったことも、全国的に竹林荒廃が進んだ背景にある。温暖で、もともと多くの竹林がある九州・山口ではとりわけ深刻だ。林野庁によると、衛星画像から推定した全国の竹林面積(北海道、青森、沖縄を除く)のうち最大は鹿児島県で、九州・山口の全8県が上位15位に入るIIグラフ。合計すると、全国の半分以上を占める計算だ。

空中写真で全国15カ所を定点観測したところ、鹿児島県旧郡山町(現・鹿児島市)では82年に217万㎡だった竹林が99年は511万㎡に。山口県柳井市でも81年の264万㎡が00年は572万㎡に倍増していた。同庁は「都市部と違って、関東以南の農山村部では拡大傾向にある」と分析している。

拡大を防ぐため、鹿児島県は今年度から3カ年計画で、幹線道路沿いなどの荒れた竹林約70万㎡を整備する。山口県は05年度から伐竹に取り組んでいて、05、06年度

に計約325万㎡を手入れ。今年度はさらに約70万㎡を目標に伐竹を進めている。

長崎、熊本、宮崎の各県も杉やヒノキの人工林に侵入した竹を伐採。福岡県は来年度から同様の事業を始める方針だ。大分県は里山にある荒れた竹林を切った

後、新たに広葉樹を植えている。

市民団体の取り組みも広がり始めた。北九州市では5年ほど前から地元NPOが小倉南区の竹林で伐採やタケノコ採りを

している。同市若松区でもNPOと市民らが協力。荒れた竹林の間伐などを毎月行っている。

若松区のNPO理事長で北九州市立大のデワンカー・パート准教授は

「成長中の竹は二酸化炭素をよく吸収し、竹林の手入れは温暖化防止にもつながる。市民や地元企業と協力して放置竹林の整備をしたい」と話した。

2008年(平成20年)  
1月27日  
日曜日

